

## 巻頭言

小尾敏夫

「光陰矢の如し」年月が経つのは早いもので古希を迎え、2018年3月末をもって教授職を退職することになりました。創設者でもある早稲田大学電子政府・自治体研究所の所長は辞しますが顧問として残ります。

思い起こせば国連勤務を終えて、大学教員生活を始めたのが1980年ですからコロンビア大学、文教大学そして早稲田大学と40年近い学者生活を送ってきました。その間、父親が労働大臣に就任した際に休職して労働大臣秘書官など大学を離れた期間もありますが、学者一筋のキャリアだと思えます。皆様には大学のみならず、学会をはじめ役所や業界団体、企業、NGO団体、その他いろいろな国内外の組織でのお付き合いの機会がたくさんありました。今回2018年3月6日に最終講義及び記念シンポジウムを開催して締めくくりとしたいと思っております。

この討究特別記念号は私が今までお世話になってきた日本国内および海外の教授たちが論文を寄稿してくれた玉稿の集大成です。寄稿者には衷心より感謝申し上げます。是非一読していただければ幸甚に存じます。また、巻末に私の研究業績なども掲載しております。

私の研究分野は慶応義塾大学大学院では国際経済学を中心に活動してきましたが、早稲田大学に移ってからは情報革命に起因する新潮流としてICTのいろいろな応用分野（いまではオープンイノベーションと呼びますが）、とりわけコネクテッド・カーや自動運転に代表されるICTと自動車産業の融合、欧米との「ICT高齢社会」シルバー・イノベーション、アジアとのスマートシティなどICT産業連携を理論と実践の両面で総合的、学際的に研究してまいりました。

また、2006年に多くの関係者の支援を受け国際CIO学会を創設し、ITリーダーの育成やCIO研究に微力ながら貢献してきたのは私なりに満足のいく成果だと考えています。同様に、2003年に早稲田大学電子政府・自治体研究所を創設し、世界各国の政府のIT化の応援をしてきました。今年で13回目に当たる世界11大学と連携しての世界電子政府進捗度ランキング調査は世界中から高い評価を頂いております。図らずも、研究所は今年でその創設15周年にあたります。

また、海外ではアジア電気通信交流会議を創設し、日本の情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ）を窓口アジア主要国の情報通信産業団体との交流を30年近く前から実施してきました。その果実としてアジア進出の日本企業や産業界のパイプ役になっています。

APEC電子政府研究センターの早稲田大学への誘致並びにITU早稲田ICT研究センターの設立、OECDやEU、国連との共同研究も国際活動で出色といえます。その功績が認められて総務大臣賞を2回及び他の国際賞も幾つも授与されました。

その他、世界の高齢社会の潮流を先取りしたシルバー・イノベーション分野の新規開拓とその一環としての日EUフォーラム、ならびに日中ICTシルバー研究などいろいろな具体的活動や研究成果もあります。本記念号を一つの分岐点として今後はさらにグローバルな展開を微力ながら推進していきたいと思っております。この紙面をお借りしまして長きにわたる関係者皆様方の御支援御協力を衷心より感謝いたします。

特にこのジャーナル記念号を発行して頂いた早稲田大学大学院アジア太平洋研究科及びその教職員の皆様のご高配には厚く御礼申し上げます。最後に、皆様の御多幸と御健勝を祈念しつつ筆を置きたいと存じます。